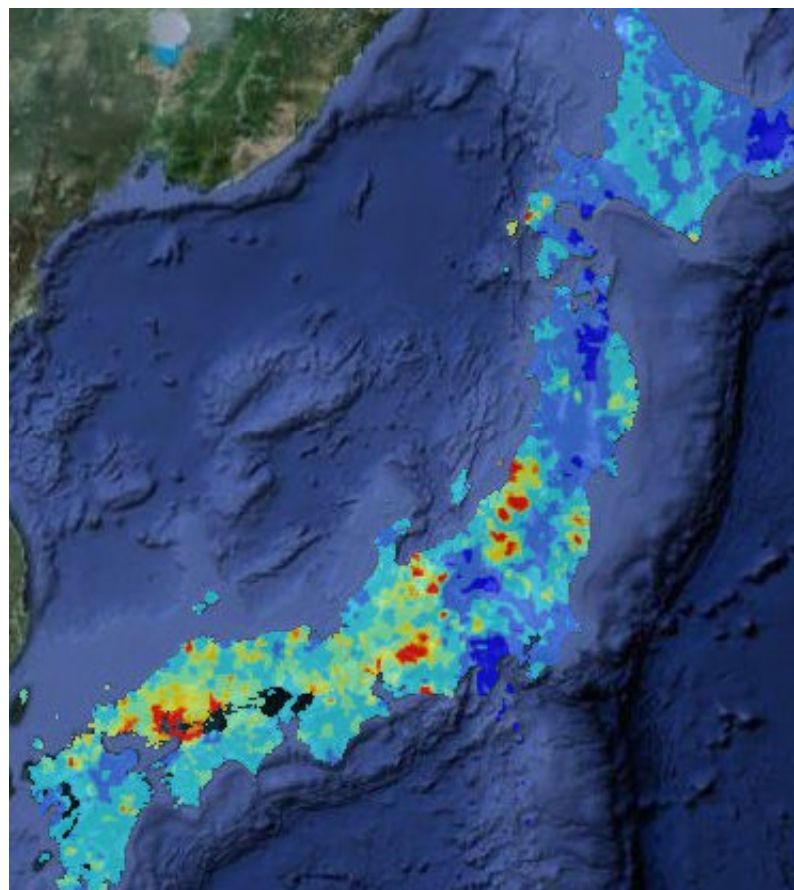
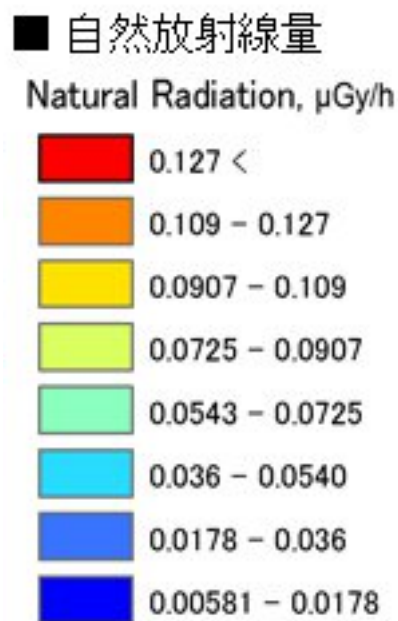


新潟の環境放射線に関する 子どもたちを放射能から守る会@新潟 の见解・要望

- 1) 新潟県の空間放射線量率の平常値
- 2) 新潟市の環境放射線測定結果
- 3) 校庭・園庭の土壤除去・覆土の基準

1) 新潟県の空間放射線量の平常値

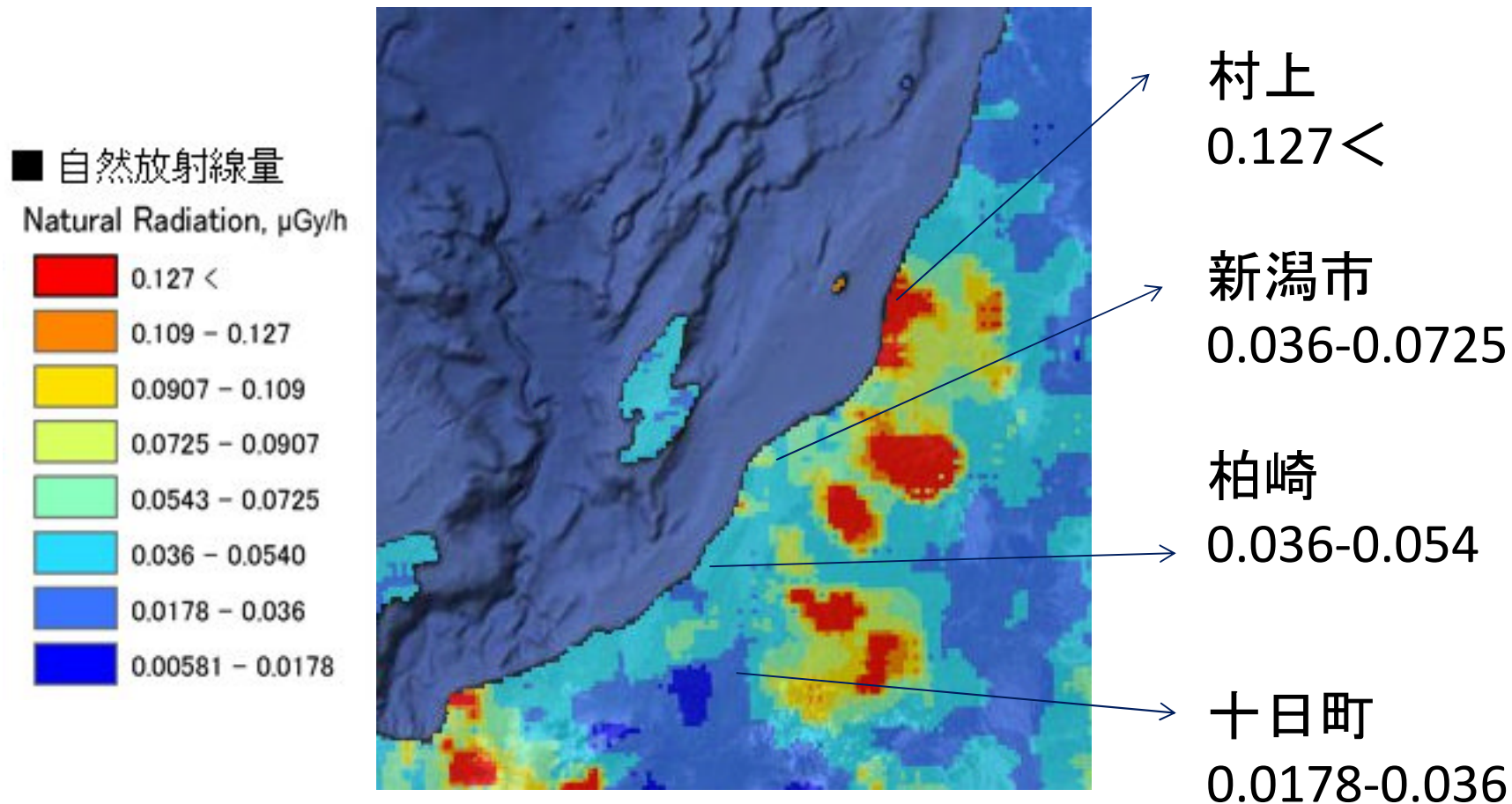
自然放射線量map



出典: 日本地質学会 日本自然放射線量
<http://www.geosociety.jp/hazard/content0058.html#map>

新潟県は他県に比し、自然放射線量の県内差が大きい

新潟県全域の基準値として 柏崎周辺の震災前の平常値が用いられている



柏崎周辺の平常値(降雨時含む)0.016-0.16 $\mu\text{SV/h}$
柏崎の平常値で県内全域を正しく評価することは困難

新潟県の空間放射線量率の平常値 に関する要望

- 1) 現在採用されている新潟県の空間放射線量率の平常値並びにその評価方法を、再検討してほしい。
- 2) 新潟県の空間放射線量率の基準値として、日本地質学会の推定値を採用してほしい。

2)新潟市の環境放射線測定結果

8小中学校校庭、8区役所庁舎の空間放射線モニタリング(月1回)
概ね日本地質学会の推定範囲内(0.036-0.0725 μ SV/h)
ただし、阿賀野川流域と中央区の一部でのみ0.1 μ SV/h以上
→正常と判断

モニタリング校の雨水側溝等堆積物の空間放射線量測定(8/24)
7小中学校で0.1 μ SV/h以上(校庭の1-1.5倍)
→正常と判断

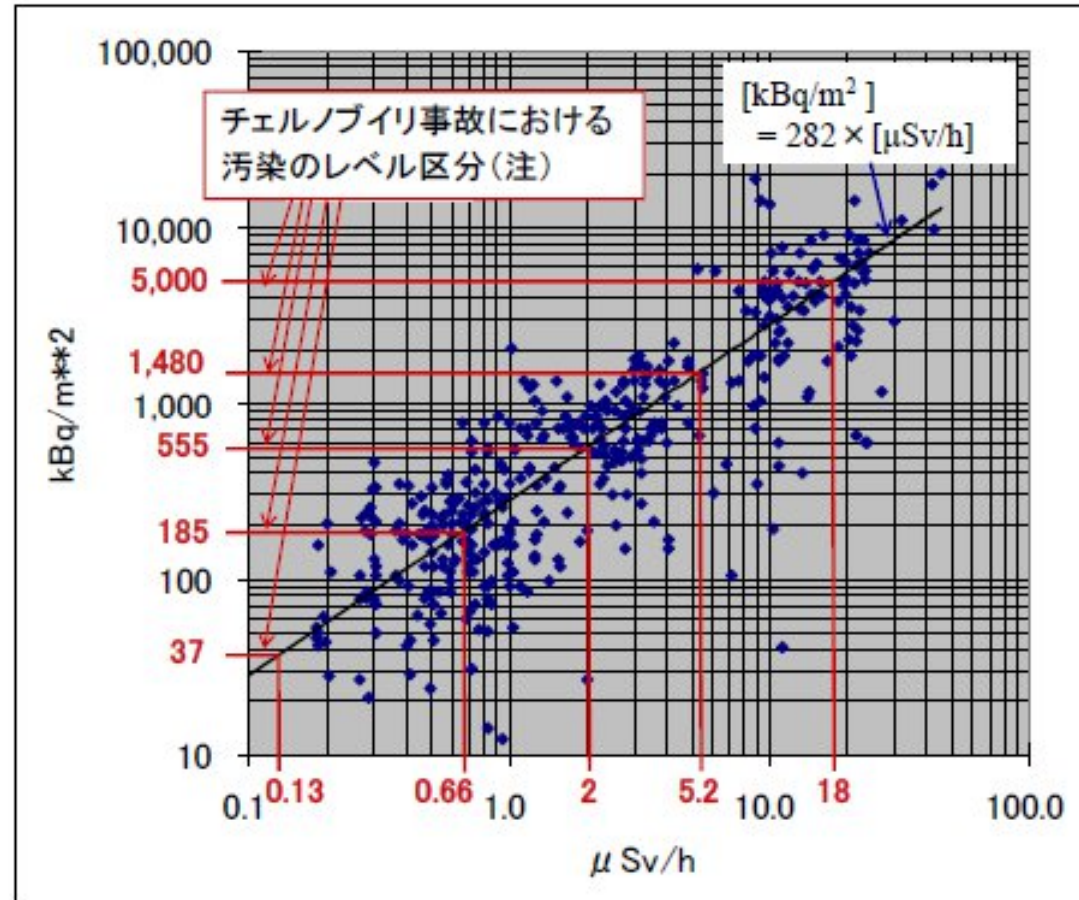
モニタリング校の校庭の土壌検査(8/31)
四隅+中央 混合土壌からセシウム検出されず
→正常と判断

新潟市の環境放射線測定結果 に関する要望

- 1) モニタリング校だけでなく、全ての教育施設で、放射性物質が集積しやすい側溝、雨どい周辺等の空間放射線を調べてほしい。
- 2) 日本地質学会の推定値を超えた空間放射線量率が測定された場合には、土壌検査を合わせて行い、安全性を確認してほしい。
- 3) 学校のプールの汚泥の清掃を、汚泥の安全性を確認することなく、従来通り子ども達にさせないでほしい。

3) 土壤除去・覆土の基準値 $0.3 \mu\text{Sv/h}$ (十日町市・長岡市)

土壤のセシウム137汚染濃度と空間放射線量率との相関



(注)
チェルノブイリ事故で設定された汚染のレベル区分とそれにもとづく対策は、放射線防護上はより安全側設定であったが、その便益に比べ、住民の生活への過大な負荷を強いる結果になり、今日では、「最適化」や「正当化」の視点から問題があったとの評価がなされている。

文科省 土壤モニタリング結果(4月30日 10:00時点)をもとに作成(Bq/kg単位をkBq/m²単位に換算)
線量率は福島市の線量率減衰特性を利用して、4月24日時点の値に補正

$0.3 \mu\text{Sv/h}$ は放射性管理区域レベルの土壤汚染85,000Bq/m²に相当

土壌除去・覆土の基準値に関する要望

- 1) 校庭・園庭の空間放射線量率の基準値は、放射線管理区域レベルの土壌汚染を許すことがないように、厳しく設定してほしい。
- 2) 空間放射線量率から土壌汚染が疑われる場合には、土壌検査を実施し、土壌に含まれる放射性物質質量で汚染の程度を評価してほしい。
- 3) 子どもが集う施設の土壌、特に砂場は、人工放射性核種の合計が震災前と大差ない $100\text{Bq/kg}^{1)}$ 以下(概ね $6,000\text{Bq/m}^2$)になるように管理してほしい。